

令和7年度 東京都立練馬工科高等学校 学校経営報告

1 今年度の主な取組

(1) 都立高校唯一のキャリア技術科としての魅力づくり

SDGs や Society5.0 など、ものづくりが迎える新たな局面に向き合い、社会からの期待に応える都立工科高校として、学び続ける力 協働する力、考える力 基盤となる技術力や基礎学力などを育み、企業や上級学校等との連携や探究型学習の推進により、工業科の教員、普通科の教員が一体となり、教科横断的に教育内容の充実・改善を目指してきた。また、各教科・系系列での計画的な資格取得に焦点を当て、「工科高校資格取得アシスト制度」等を活用し、電気工事士、機械保全技能、色彩等、生徒の進路実現に資する指導により、社会人基礎力の向上を目指した。

(2) スクール ポリシーを踏まえた教育課程の編成・実施、STEAM教育の関わり

工科高校の生徒として、実践的・体験的な学びを通して工業的視点での見方・考え方を働かせることができるよう、探究学習を組織的に展開し、学習指導体系の充実化を掲げた。そのために、東京都教育委員会 Tokyo IBL (Inquiry-Based Learning) Project Scope プログラムのうち、外部専門家を交えた課題研究等での探究的学習を推進させるとともに、第一学年における全教科での少人数・習熟度別学習の研究を進め、生徒の学習ニーズや総合的人間力の育成を重視し、教育課程をさらに特色化することで学びのデザインを追求させてきた。

(3) グローバル人材育成の取組

令和5年度アラブ首長国連邦、令和6年度英国に生徒代表団を派遣したことにより、生徒のグローバル意識は大きく変容した。世界とのリンクで学びを深め学校をアップデートする目的により、多文化共生に係る国際交流の取組を推進するとともに、国際理解教育の基盤となる英語力や工科高校生の視点から国内外の課題解決に向けた創造的・論理的思考力の育成など、教科横断的な取組でグローバル人材の育成を位置付けた。また、自動車部が毎年参加している「Honda エコマイチャレンジ全国大会」が、燃料がガソリンからカーボンニュートラルに切り替わることなども受け、世界的な環境課題にも関心を持たせ、トライ&チャレンジを繰り返しながら新たな経験を積み、工科高校生としての思考力を高めさせる工夫を目指した。

2 学校経営計画の検証

令和7年度学校評価を基にした学校経営計画の検証

(1) 都立工科高校唯一のキャリア技術科としての魅力づくり

【学校評価より】

※ () 内は令和6年度の数値。端数切捨て。

質問事項	生徒肯定的回答率	保護者肯定的回答率
ものづくり人材を育成し、東京の産業の発展の支えとなる役割を果たしている	89% (80%)	88% (89%)
進路決定に向けた体験授業、キャリアガイダンスの授業は必要である	87% (83%)	92% (94%)
企業や大学等と連携した学習を進めることは探究的な学びに役立っている	88% (80%)	91% (99%)

学校評価から、再生可能な社会の実現や Society5.0 など、ものづくりが迎える新たな局面に応える都立工科高校の各校として、学び続ける力 協働する力、考える力、基盤となる技術力や基礎学力などを育み、企業や上級学校との連携や探究型学習の推進により、工業科の教員、普通科の教員が一体となり、教科横断的に教育内容の充実・改善

を目指した取組内容が一定支持されている。次年度に向けて、地元企業、日本商工会議所等との連携を一層深めることで、探究的・創造的な学びの基盤となる人間力の向上や将来的に地域に根差した人材の育成を目指す。

(2) スクール ポリシーを踏まえた教育課程の編成・実施、STEAM教育の関わり

【学校評価より】

※ () 内は令和6年度の数值。端数切捨て。

質問事項	生徒肯定的回答率	保護者肯定的回答率
1学年の3教科30分授業は基礎学力の定着に役立っている	83% (80%)	84% (87%)
朝学習について学習習慣等の定着に役立っている	78% (64%)	89% (77%)
習熟度別学習や少人数別学習による授業形態は、学級単位の授業に比べ良い	81% (82%)	91% (94%)

学校評価から、工科高校の生徒として、実践的・体験的な学びを通して工業的視点での見方・考え方を働かせることができるよう、探究的学習を意識し、学習指導体系の充実化を目指した取組が一定の数值として表れている。東京都教育委員会 Tokyo IBL(Inquiry-Based Learning) Project Scopeプログラムを活用し、外部専門家を交えた課題研究での探究的学習を推進しているところであるが、入学する生徒の実態も踏まえながらキャリア教育の中身を精査する必要もある。次年度に向けて、都立工科高校生最先端企業訪問等を通して、ものづくり分野における創造的な価値や未来都市づくりに向けた考察など、ものづくり教育に軸足を置いた機会の創出を目指す。

(3) グローバル人材育成の取組

【学校評価より】

※ () 内は令和6年度の数值。端数切捨て。

質問事項	生徒肯定的回答率	保護者肯定的回答率
海外へのスタディツアーや海外派遣研修の機会があれば参加してみたい	54% (-)	73% (-)
インターンシップの取組は、進路を考える上で役立つ	90% (89%)	94% (97%)
「体験Ⅰ・Ⅱ」「キャリアガイダンス」の授業は、進路指導上必要である	82% (83%)	92% (92%)

学校評価から、グローバルな視点で世界を知る興味・関心を抱く生徒、そのことを応援していただける保護者の方が一定数存在することが判明した。インドネシア姉妹校へのスタディツアー実施の予備調査では、経費の全額自己負担にも関わらず30名の参加希望があった。都教育委員会「専門高校生海外派遣研修」への応募と併せて実施に向けて準備を加速させる。校内組織的には、国際理解教育については新たなステージに移行しつつあり、工業教育と絡めたグローバルマインドの育成を目指した試みを位置付けていく。また、インターンシップの効果は高いが、技能習得型インターンシップや教科「人間と社会」との関係も踏まえながら、都教育委員会の施策、生徒の実態、企業の意見、組織体制等を総合的に勘案し、新たな体系の検討を進める段階にもある。

3 学校評価委員、学校運営連絡協議会協議委員の主な意見

- ・ エンカレッジスクールの特色として、1学年での一部30分授業や複数担任制など、他校にはない特色であり、魅力的である。
- ・ 海外研修など、国際感覚を身に付ける方策は現代のニーズに合致している。
- ・ インターンシップは職業観を育成する上で、特に専門学科高校では重要な位置付けにある。前向きに考える生徒の希望は大切にしたい。

- ・ 社会問題化しているいじめ問題やSNSの利用など、学校が出来ることは限られると思うが、重大事態に陥る前に、早期発見、未然防止に引き続きお取り組みください。
- ・ ホームページや動画作成など情報発信に注力され、学校の取組や魅力の見える化を感じる。
- ・ 確かな指導で電気工事士の合格実績や中途退学者の減少、堅調な就職実績など、付加価値を創出している。
- ・ 学習指導要領に基づく学習指導と人間性の育成という両軸の下、先生方が生徒に寄り添う校風を感じる。
- ・ 安全教育、防災教育等において、今まで同様に関係機関を活用していただきたい。協力を惜しみません。
- ・ 生徒の挨拶や自転車乗車マナーなど、年々良くなっている。
- ・ 入学者選抜の応募状況が気になるが、他校に比べ学校見学会を数多く行い、中学生に工科高校の魅力を発信されていることを聞いた。
- ・ 専門学校との連携教育が4年目を迎え、高校の体験授業を履修した生徒が連携校に入学し、国家資格等を取得し就職するなど、系統的教育の効果が生まれている。

4 次年度以降の課題と対応策

学校評価からは、ここ数年、肯定的な回答を多くの設問から認められてきた。総合的に、学校の活動が一定受け入れられているものと判断できる。現状に満足することなく、更なる「充実・発展」をキーワードに推進を図る。一方で、低い数字の回答者はいるので、限りなくゼロを目指して、「個別・きめ細かく・手厚く」をキーワードに謙虚に受け止めて改善していかなければならない。生徒会を中心に、主体的に行事や校則等について関わろうとする積極的な姿があり、生徒の主体性や自主性が芽生えていることが伺える。

本校の期待する生徒の姿は、「志望動機が明確であり、ものづくりに関する旺盛な探究心と想像力を持つ生徒」「主体的に学ぶ意欲と規範意識を持ち、高い人間性を育もうとする生徒」「自己の能力を高め、切磋琢磨しながら社会に有為となる生徒」「国際交流に興味・関心を持つ生徒」の4点としており、このことを基本に、学ぶ意欲と総合的なキャリアの育成に軸足を置いた教育活動が重要であると考えます。また、保護者への適切な情報提供が課題であり、令和7年度に試行した「保護者対象企業研究会」の拡大を視野に、東京商工会議所、東京都中小企業家同友会の協力を仰ぎ実施する。

入学する生徒の実態を勘案し、理解しやすい授業づくりや生活しやすい環境づくりを目的に、「練馬工科高校ユニバーサルデザイン（仮称）」を位置付け、生徒の可能性を一層引き出す教育環境の整備に取り組む。

工科高校としての学びとエンカレッジスクールの特色・特長の認知度を高めるため、広報活動を積極的に行い、魅力向上、魅力発信に努める。